



とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人

じりつしえん
自立支援センター

おおいた

平成18年度NPOパートナーシップ推進事業
ユニバーサルデザイン度調査開催

第12号 発行年月日:2007年 2月 1日(木)
発行元:特定非営利活動法人
自立支援センターおおいた
編集担当者:五反田 法行・安富 秀和

大分県からの委託を受け「平成18年度 NPOパートナーシップ推進事業・ユニバーサルデザイン度調査」を9月24日(日)「大分スポーツ公園・九州石油ドーム」。12月10日(日)「大分駅周辺市街地」にて、2度のユニバーサルデザイン度調査を行いました。

今回の事業目的としましては「住む人が暮らしやすく、訪れる人にやさしい大分県の創造」というテーマを念頭におき、大分県内に既存する公共施設、ホテル、歩道・車道、公園などといった様々な場所を障がい当事者、高齢者、行政職員、有識者、外国人、小さな子どもをお持ちのお母さんなどといった広く一般市民の方々に参加をしていただき、ユニバーサルデザイン度調査を通じて、県民への広報啓発をはかり、ユニバーサルデザインの理解促進をうながすこと。また、その調査データを施設整備マニュアルと対比させ、新たに作成される施設整備マニュアルへの基礎資料として活用していただき、今後の施設整備に役立てていただくことを目的に事業を展開しました。

調査当日の参加者も2回の調査で100名以上の方々に参加していただき、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

その中でも気になった意見を紹介しますと...

目的地までを結ぶ誘導ブロック(点字ブロック)が歩道のマンホールを避けるように敷かれていた。(図1参照)

各設備の案内表示・使用方法の表示の文字が小さく見えにくかったり、外国語表記がなく、外国人の方が水洗ボタンと緊急ボタンを間違えそうになった。

トイレに設置しているベビーチェアが床から160cmの位置に設置されていて、大変危険である。(図2参照)

というような意見もあり、参加して下さった方々も、実際に自分の目で調査に携わり、今までの生活では気付かなかった部分に気付けたとの感想もいただきました。

今後も、当センターでは調査、ユニバーサルデザインについての広報啓発等を継続し、皆様と共に考え、より良い大分県の創造を目指していきたいと考えています。

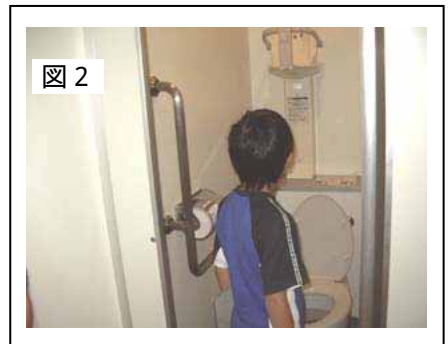
担当:若杉竜也



図1



図2



平成18年度ユニバーサルデザインのまちづくりワークショップ事業報告！



別府市・ワークショップの様



別府市・商店街での疑似体験



由布市・ワークショップの様



由布市・ワークショップの様



大分市・ワークショップの様

大分県民の方々のユニバーサルデザイン(UD)についての意識啓発を目的として、別府市、由布市、大分市の県下3ヶ所で開催してきました委託事業(担当課：福祉保健企画課)『平成18年度ユニバーサルデザインのまちづくりワークショップ』が終了を迎えましたのでご報告します。

9月16日(土)に別府市の別府市中央公民館1階会議室を中心に開催し、11月11日(土)には、由布市の健康温泉館クアージュゆふいん、12月10日(日)には、大分市のコンパルホールを主会場として行いました。参加総数は、153名にも上りましたが、ワークショップの大きな内容としては、パワーポイントを用いたUDについての学習や高齢者疑似体験、妊婦体験、視覚障がい者疑似体験、車椅子体験を通してUDについて考える町歩き、その後のワークショップ内で疑似体験やその介助を通して気づいたことや感じたこと、また、日頃の生活の中でUDについて思っていること等を班毎に自由に意見交換して頂き、最後に各班内で意見を集約し、意見発表を行いました。

別府市と由布市のワークショップ当日の天候は残念ながら雨模様。特に由布市の日、大雨の上、気温も低く、スケジュールやコースの一部を変更するなどのハプニングがありましたが、疑似体験は、普段の視点とは違う目線で様々な設備を改めて見て感じる事ができる等、参加者の皆さんにとっては、UDについて多くの気づきや考えや思いが生まれる良い機会となったようでした。

障がい当事者や高齢者、外国人、小学生やその親御さん等、多くの方が集まり様々な意見が飛び交ったワークショップの意見交換の場では、施設整備の不備に関する意見が噴出したことは勿論、例えUDの考えで整備された施設でも、それを利用する人達が利用する人達の立場になって考え行動しなければ何もならない。これからの社会の中では、施設のUD化は当たり前のことではあるが、「すべての人が利用できる施設というのは難しいので、その時には、人がどう関われるのか、人の心のUD化も施設整備同様、とても重要なことである」ということが、どのワークショップに於いても共通の意識として共有できたことは、とても意義のあるワークショップとなったと感じております。

このようなワークショップがこれからも県下各地で開催されることにより、皆さんのUDに関する意識が向上すると共に社会基盤整備が進み誰もが安心して暮らし訪れることができる大分になることを切に望みます。

記事担当：河野龍児



大分市・コンパル内疑似体験



疑似体験の説明

泉都別府ツーリズム支援事業「バリアフリー調査とホームページによる情報公開」

別府市まちづくり事業の一環である、泉都別府ツーリズム支援事業においてNPO法人自立支援センターおおいたでは下表の日程で「バリアフリー調査とホームページによる情報公開」事業を行いました。

事業の実施期日	事業の実施場所
平成18年08月03日	観光施設バリアフリー調査 杉の井ホテル
平成18年09月04日	観光施設バリアフリー調査 地獄めぐり
平成18年10月06日	飲食店バリアフリー調査 明礬湯の里・華海鮮・ラーメンやなぎ家
平成18年11月06日	グレートバリアフリー探検 上人ヶ浜公園～六勝園
平成18年12月15日	公共施設バリアフリー調査 九州石油ドーム

一昨年まで3ケ年に渡り行われてきました、「泉都別府まちづくり支援事業」からの継続事業で本年度も別府市においてのバリアフリーのまちづくり活動に反映していきたいと考え「バリアフリーのまち・安心して楽しめるまち別府」をテーマに事業実施してきました。

本年度の事業内容は、8月に観光施設バリアフリー調査として「杉の井ホテル」へ調査に伺いました。杉の井ホテルでは、宿泊施設やレジャー施設と幅広く調査し、その中でも高齢者から障がい者まで安心して宿泊できる様配慮して造られ、ホテルの4階全体がバリアフリー施設となっている「グットタイムフロア」はとても素敵な造りとなっていました。431号室VIPルームにおいては、重度の障がいで寝返りが出来ない人でも、数分おきに自動的に寝返りをうち角度まで設定できるというもので、ベッドには音声操作もついていました。ホテルの方のお話によると、体が動かず事が出来なくても安心して休める様に、また介護される方に少しでもゆとりと睡眠をとられてほしいとの配慮から設置されたという事でした。



11月には、事業の一環である交通バリアフリー調査として、グレートバリアフリー探検を開催しました。上人ヶ浜公園～六勝園の道のりを、障がい者と健常者が一体となりバリアフリーチェックを行い、車椅子・視覚障がい者の疑似を体験しながら周辺道路の段差や傾斜角をチェックし、更に公園に設置されている身障者トイレの状態や状況についても調査しました。当日の参加者は16名で、4班に分かれ調査体験をし最後の発表まで沢山の意見や感想をいただき、公園について今後の課題などの意見交換も行ないました。



泉都別府ツーリズム支援事業「バリアフリー調査とホームページによる情報公開」において調査場所を決定する際、基本として身障者トイレの有無を基準としてアポイントを取りました。今回調査した情報をもとに、ハンディキャップのある方が、観光・公共施設、飲食店に訪れる際、安心して楽しめるための情報提供が出来ればと考え事業を行ってきました。本年度の事業は終了しましたが、今後更に情報を充実できる様当センターではバリアフリー調査等の活動を行っていきたく思います。

今回、当センターで行った「泉都別府ツーリズム支援事業 バリアフリー調査とホームページによる情報公開」事業の内容はホームページにより公開しております。

自立生活プログラム・フィールドトリップ「晩夏の花火大会」

昨年さくねんの9月9日がつ 9 日にフィールドトリップ「晩夏の花火大会」ばんか はなびたいかいが行おこなわれました。前日ぜんじつに悪天候あくてんこうのため中止ちゅうしの声こゑもあがったのですが、すでに申込もうしこみされている方かたの人数にんずうが多おほかった事こともあり、場所ばしょと内容ないようを一部変更いちぶへんこうして雨天決行うてんけつこうとなりました。当日とうじつの夕方ゆがた4時にユニバーサルマンションの1階駐車場ちゅうしやうじやうに集合しゅうごうし、趣旨説明しゆしせつめいの後あとグループぐるーぷに分かれて自己紹介じこしょうかいをして買い物か ものや交流会こうりゆうかいの準備じゅんびにかりました。各自かくじ、食べたい物たべたいものを購入かうりゆうし、決められた時間きま じかんまでに戻もどってくるというルールい りうる設定せっていでスタート、皆さんみなさん思い思いおもい おもいに買い物か ものを楽したのんでいました。買い物か ものが済すんで集合しゅうごうしたら交流会こうりゆうかいの準備じゅんびを皆みなで分担ぶんたんして行おこないました。交流会こうりゆうかいで食べる料理りょうりはバーベキューで、各自かくじが購入かうりゆうした材料ざいりょうを焼やいて食べたべていました。中にはアルコールなかにを購入かうりゆうして飲のんでいる方かたもいたようです。残念ざんねんながら飲のみ過ぎてハメすをはずしてしまかたった方かたもいたようですが、こういった所ところは私達わたしたちにとっても次回じかいに繋つながる反省点はんせいてんでした。楽しい席せきであってモルールルールはルール、自分勝手じぶんかたな行動こうどうが他ほかの方かたにまで迷惑めいわくをかける事ことになってしまうのです。自立生活プログラムじりつせいかつとはそういった日常にちじょうのルールルールを学まなぶ場ばでもあります。地域生活ちいきせいかつを始めるはじめるために様々さまざまな場面ばめんを想定そうていしてプログラムプログラムは組くまれますから、せっきく参加さんかされるのであれば次回じかいはそういった点てんも考かんがえて行動こうどうしていただけたらと思おもいます。さて、心配しんぱいされた天気てんきですが、幸さいわい当日とうじつはイベントイベントのメインである花火はなびまで楽したのんでもらえました。家族かぞくで参加さんかされた方かたもいて、喜よろこんでもらえたようよで良かったなと思おもいます。最後さいごにみんなみんなで簡単かんたんな片付けかたづけをして記念写真きねんしゃしんを撮とって終了しゅうりゆうしました。皆さんみな楽したのんでいただけたでしょうか？遅おそくまで残のこって後片付けあとかたづけをしてくれたスタッフスタッフの皆さんみなさんありがとうございました。皆さんの協力きょうりやくがあつて今回のイベントイベントはうまくいったと思おもいます。本当ほんとうなら準備じゅんびから後片付けあとかたづけまで全員ぜんいんでやるのがフィールドトリップフィールドトリップだと思おもっています。次回以降じかい以降、よりよいプログラム作りづくが出来できるように今後こんごも協力きょうりやくをお願いします。参加さんかされた皆さんみなさんも誰だれかしらの協力きょうりやくがあつて楽したのめていると言いう事ことを忘わすれないようにしてください。またこういふ機会きかいがある時ときには色々いろいろな形かたちでお知らせしします。皆さんの参加さんかをお待ちまちしています。



きじたんとう ふくだひろのり
記事担当：福田浩範

第14回フィールドトリップ「夜に別府の街で交流会」

10月21日がつ 10 月 21 日（土）に夜のフィールドトリップ「夜に別府の街で交流会」よる べっふ まち こうりゆうかいが開催かいさいされました。夜の企画よる きかくとしては今回こんかい2度目の開催どめとなりました。前回は（飲のみ屋やをハシゴ）という企画きかくでしたが、今回はA級劇場きゆうげきじやうへ行いってきました。当日とうじつは、参加者さんかしゃ（障しょうがい者しやう15名、健常者けんじやうしや5名）の20名めいの方かたが参加さんかされ、PM18:00べ 18:00に別府竹瓦温泉前べ 18:00に集合しゅうごうし開催あいさつかいさいを行おこないA級劇場きゆうげきじやうへ出発しゅつぱつ、PM19:00べ 19:00よりショウを楽したのしむ事こととなりました。

A級劇場きゆうげきじやうでは、なかなか記事きじには書かけない内容ないようもありますが、3人にんの女性じよせいの方かたが素晴らしいダンスダンスを交代こうたいで披露ひろうされ、参加者さんかしゃの方かたはビールめいを飲のみながら楽したのんでいたり身みを乗り出のりだして見入みいっている方かた、今回こんかい女性参加者じよせいさんかしゃも多おほく呆あつ



気にとられていました。最後は3人一緒でのパフォーマンスがあり参加者の皆さんとても楽しそうでした。1時間30分ほどA級劇場を堪能し、ユニバーサルスペース夢喰夢叶へ移動、PM21:00より食事を食べながら、またカラオケも歌いながらの交流会に移りました。交流会ではA級劇場の事が話題となり、凄かった、初めて見た、良い体験が出来たなどお話はずみとても盛り上がっていました。時間があっという間に過ぎ、最後に感想など皆さんで語り合いPM23:00終わりを迎えることになりました。A級劇場に関して企画の段階で悩む所もありましたが、フィールドトリップの趣旨の1つでもある「行きたいけどいけない、障がいを理由にためらっていた事を、企画を通して経験し1歩前へ進んでほしい」という意味に関して、A級劇場という企画はとても良かったと思います。今後も、更に楽しい企画を考え障がい者・健常者と問わず、皆様が一緒になって楽しめる企画を考えていきますので、沢山の方々のご参加お待ちしております。

記事担当：安富秀和



第15回フィールドトリップ「ボウリング」 in スギノイボウル

12月16日(土)に自立生活プログラム・フィールドトリップ「ボウリング」がスギノイボウルで開催されました。

今回「ボウリング」という企画なんですが、障がいを持たれた方がボウリングと聞くと、ボールをどうやって転がせばいいのかというのが、まず頭に浮かぶのではないのでしょうか。

しかし、図1の写真の様にあります投球補助機を使用していただければ、様々なハンディキャップを持たれた方でもボウリングが可能です。

今回は、参加者とスタッフを含めた14名の方の参加となりました。当日は一時半にスギノイボウルへ集合、参加者全員が集まったことを確認し、ミーティングルームへ移動しました。移動後、趣旨説明・自己紹介をして昼食をとり、その後、休憩を挟みよいよボウリングをやることになりました。ボウリングを行う際は、健常者の方と障がい当事者として各ペアになってもらってゲームを開始しました。

ゲームの流れとしては健常者の方には普通に投球してもらい、障がい当事者は投球補助機を主に使用しての投球となったんですが、中には、投球補助機を使用せずに投球される方もいました。

ゲームの中で、介助者にボールをセットしてもらい、投球補助機的位置をずらしてもらったりしながら、ストライクを目指し、参加者の方の思い思いの投げ方で楽しんでいただいているように思います。

今回の「ボウリング」は好評だったので、今後もまた開催したいと考えています。その際は是非参加のほう宜しくお願いします。

記事担当：五反田法行



図1

福祉フォーラム in 別府速見 第5回連続セミナー開催

昨年12月2日の14時から別府大学において福祉フォーラム・連続セミナーが行われました。今回はパネリストとしてNPO別府優ゆう・理事長の田中康子氏、大分障害者職業センターの近藤光徳氏、別府大学講師の三城大介氏の3人をお迎えして「障がい者の就労を考える」をテーマに意見交換を行いました。このテーマは以前にも取り上げていた中で、参加者の皆さんから再度取り上げて欲しいという要望が強かったものです。昨年施行された「障害者自立支援法」は障がい者の社会参加という事で「就労」を大きく取り上げています。しかし現実是一般就労はなかなか進まず、福祉就労の意義が見落とされがちです。セミナーではまず田中氏から小規模作業所の現状が報告されました。支援法施行後の様々な問題を作業者全体で一糸懸念命クリアしている様子が伝わり、「やはり支援法の影響は思っている以上に大きいのだな」と思いました。近藤氏からは就労支援の課題についてお話しがありました。様々な障がいを持っている相談者に対しての支援に苦慮されているという報告があり、障がいのある方の就労の難しさを改めて痛感しました。三城氏からは精神障害者の就労支援ネットワークについて現状が伝えられました。表向きには伝わりにくい障がいであるため、精神障害者特有の問題があることも浮き彫りになりました。この「就労」に関する問題はこれからも継続して掘り下げていくべき問題だと思います。今後も福祉に関する様々なテーマを取り上げていってほしいし、もっと多くの人にこういった現状を知って欲しいと思います。



記事担当：福田 浩範

『自立生活プログラム(ILP)リーダー養成講座』開催！



大分県社会福祉協議会・大分県ボランティア市民活動センターの福祉ボランティア専門研修の助成を受け、2006年9月17日(日)～19日(火)の日程で、大分国際交流会館2階研修室にて、町田ヒューマンネットワークの堤 愛子さんを講師に迎え「自立生活プログラム(ILP)リーダー養成講座」を開催致しました。

今回、当センターが、本講座を開催した目的は、2006年4月から一部施行された障害者自立支援法の利用料の原則1割負担等及び10月からの地域生活支援事業を含めた全面施行により、当

事は勿論、地域の現場でサポート支援を行っている事業所側も、かなりの動揺と混乱を招いている中で、地域や施設等で生活する当事者の方々一人ひとりのニーズに合うサポート支援を行うために何が必要なのかを考え、そのスキルを身に付けるために開催致しました。結果として、講師の堤さんには、私たちが、現実として求めていた情報(ILPとピア・カウンセリング、ILPの意義と目的、プログラムの作り方、生活保護全般についてとロールプレイ、リーダー体験等々)を的確にプログラムに散りばめて頂き、本当に実りの多い研修となりました。また、台風という悪天候の中、遠くは大阪からもご参加頂き、それぞれの現場での問題点や悩み等の意見交換ができたことは、ご参加頂いた皆さんにとってとても貴重な時間となったようでした。現在、スタッフ一同、ここで学んだことが現場で活かせるよう日々奮闘しています！

記事担当：河野龍児

「高齢者・障がい者の支援に関する拡大協議会 自立と障害者自立支援法を問う」

11月18日(土)大分文化会館第一小ホールにて、「高齢者・障がい者の支援に関する拡大協議会 自立と障害者自立支援法を問う」が弁護士会主催の下開催され、弁護士30名を含む約100名が参加されました。協議会の内容としては、自立という事に関する位置づけや障害者自立支援法についての議題が上がり、最初に障害者自立支援法について、横須賀俊司(県立広島大学保険福祉学部人間福祉学科助教授)さんの講演が行われました。講演の中で横須賀さんは、在宅・施設で暮らす障がい者の支援に対する国の予算割についてお話をされ、03年度(下表参照)を例として考えた場合在宅に対して施設の予算が約5倍、しかし各人数の割合は在宅に対して施設の人数は9分の1となっている、どう考えても矛盾があるとお話されました。居宅生活支援費が3年連続での赤字が続いたという事で、支援費制度が破綻し障害者自立支援法に移行する事になった。しかし連続の赤字により支援費制度が破綻といっても、実際03年における赤字額は200億円程だったとの事でした。しかし同年イラクで戦争がおきた際、日本はすぐに1200億円の補正予算を組んだ事には正直驚いたなど、約1時間の講演で厚生労働省への不信感や障害者自立支援法が施行されてからの現状をお話しされました。

	居宅生活支援費(在宅)	施設訓練等支援費(施設)
03年度予算	515億8800万円	2696億7900万円
04年度予算	601億8800万円	2871億1800万円
05年度予算案	930億 900万円	2901億6500万円

施設障がい者と在宅障がい者の人口比

障害種別	在宅障がい者	施設障がい者
身体障がい者	325.5万人	18.1万人
知的障がい者	22.1万人	12.1万人
精神障がい者(20才以上)	209.5万人	34.1万人
計	557.1万人	64.3万人

次に、進行役の瀬戸久夫氏(弁護士)、徳田靖之氏(弁護士)、水之江正博氏(大分市障害福祉課参事)、安富秀和(自立支援センターおおいた)、横須賀俊司さんを合わせた5人でのシンポジウムと移り沢山の議題が上がり、その中でも、「障がい児・者に対する支援は権利(基本的権利)」という問いについて、障がいを持つ方が生きていく生活していく事において、障害者自立支援法によりこれからは全て応益負担が強られる。これを国の法律で権利と認められ国の基本方針のりこめないのかと言う議論を行い、最後に国がつくった法律に地方が特別の措置をとって対応している。国に対して地方が法律違反をしなければいけない障害者自立支援法とはどれだけ間違った法律なのかという意見で協議会が終了しました。

記事担当：安富秀和

出直してよ！「障害者自立支援法」10・31大分大行動を行いました

10月31日に東京で行われた全国大行動に合わせて大分で「困るよ！自立支援法」大分行動呼びかけ人会が中心となって大行動が行われました。当日は、9月21日に県議会にて採択された意見書のお礼と県の支援策の拡大、国への要望強化を求めて県障害福祉課、県知事室、県議会を訪ねました。障害福祉課では、白川・石川両参事に要請文を手渡し、自立支援法の問題点改正や国に対する働きかけへの協力要請を行いました。次に県知事室を訪ね、直野県知事室長(広瀬知事はご不在でした)に「お礼と報告」を渡しました。室長からは「知事も自立支援法が地域の実態に合わないということはよく理解しています。今日も東京出張中でこの問題の要請も行



っています。知事が帰ったら皆さんの要望を伝えます」というお言葉を頂きました。次に県議会の各会派を訪れ、7名の議員さんには直接会って意見書採択のお礼を述べ、不在の議員さんにはお礼と報告の文書とチラシを置いてきました。その後、大分市のトキハ前へ移動し、大分県民の方々に、障害者自立支援法への理解を求めるためのピラ約600枚を配布し終了しました。

記事担当：河野龍児



これからも自立支援センターおおいたや自立生活センターおおいたでは、楽しい催し物をぞくぞくと行っていきますので、ご家族・ご友人をお誘いの上、皆さんふるってご参加下さい。
詳細は、1ヶ月前にチラシや市報などによりお知らせ致します。
(催し物や日程は都合により変更の場合がございますので予めご了承下さい。)

2月3日(土)・4日(日)
福祉ボランティア専門研修・「自立生活プログラム体験講座」

2月12日(月・祝日)
障害者自立支援法の見直しを求める「おおいた県集会」

3月17日(土)
福祉フォーラム別枠速見第6回連続セミナー

4月7日(土)
フィールドトリップ「お花見」

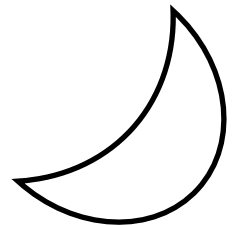
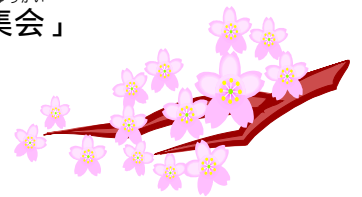
4月21日(土)
ピアカウンセリング公開講座

5月19日(土)
フィールドトリップ「魚釣り」

6月16日(土)
ピアカウンセリング基礎講座

7月予定
フィールドトリップ「ツインバスケット交流会」

8月予定
ピアカウンセリング基礎講座



<編集後記>

明けましておめでとうございます。新年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか？お正月にお餅など食べ過ぎて、ほっぺがお餅みたになってはいませんか？(笑)

本年が皆様にとって幸せな一年になりますよう当センター一同お祈り申し上げます。まだまだ寒い日が続きますが体に気をつけてみなさん頑張りましょう。今年もスタッフ一同はりきっていきたくと思っていますのでどうぞ宜しくお願いします。

編集後記担当:五反田法行

主なサービスは次の通りです。

- 訪問介助サービス
- ピア・カウンセリング
- 自立生活プログラム
- 福祉各種無料相談
- 自立生活・バリアフリーセミナー
- バリアフリーコンサルタント
(ユニバーサルデザイン)

特定非営利活動法人 自立支援センターおおいた
〒874-0942
大分県別府市千代町13-14 エンパ・ビル2F
TEL: 0977-27-5508
FAX: 0977-24-4924
E-mail: 333@jp114.com
URL: <http://www.jp999.com/333/>

★ 私達は利用者主体の介助サービスを提供しています ★



